

チャプレンより



高野主教は立教英國学院の学校付き牧師です。礼拝や聖書の時間には、大変豊かな知識を感じさせる、様々なお話をし下さいます。

レッジの「クリスマス礼拝」を毎年放送します。世界で最も優れた聖歌隊と言われる合唱と聖書の朗読からなる礼拝です。イギリス中のほとんどの人が、この礼拝を楽しみにテレビをつけます。この礼拝は毎年DVDに録画して立教の学生は授業で見ています。

す。人々はこの礼拝から帰り、昼には長い間考え用意した「クリスマスディナー」をどの家でも楽しみます。

二十六日は「ボクシングデー」です。貰つたクリスマスプレゼントはこの日まで開かないでクリスマスツリーの下に飾り、この日になつて初めて開きます。私たちの一年で最も嬉しい日で、「スー・バ



第二百五十九号 二〇一一年十二月八日

発行者 立教英國学院

RICKY'S SCHOOL IN ENGLAND
GUILDFORD ROAD, RUDGWICK RH12 3BF

<http://www.rikkyo.co.uk>



【2学期の行事】

【2 学期】(実行予定)	
9 月 10 日	生徒帰寮
9 月 11 日	始業礼拝
9 月 12 日	高等部実力テスト
9 月 18 日	JAPAN 祭りへ外出・ボランティア参加
9 月 22 日	午後ブレイク
9 月 24 日	茶道部、大英博物館の茶道講演会へ外出
10 月 2 日	ロンドン日本人学校の文化祭へ外出
10 月 7 日	第 31 回因数分解コンクール
10 月 9 日	川畠成道バイオリンコンサート
10 月 9 日	ギター部コンサート
10 月 15～16 日	英語検定一次試験
10 月 16 日	ブーさんの森へ乗馬外出
10 月 19 日	アウティング
10 月 23 日	TOEIC・TOEIC Bridge の資格試験
10 月 28 日～11 月 5 日	オープンデイ準備期間
11 月 6 日	オープンデイ
11 月 13 日	英語検定二次試験
11 月 23 日～28 日	期末考査
12 月 1 日	スクールコンサート
12 月 2 日	クリスマスコンサート、キャロリング
12 月 3 日	クリスマス礼拝
12 月 9～10 日	生徒帰宅
12 月 9～10 日	高等部入学試験（A 日程）実施

— 目次 —	ページ
第6回 チャプレンより	1
オープニング	2 ~ 3
英語科校外学習レポート	4
社会科フィールドワーク	4
茶道部 大英博物館へ	5
FIRST AID トレーニング	5
プーさんの森で乗馬体験	5
サイエンスワークショップ	6 ~ 7
短期留学	8

コラム
アップルデイ
先生のエッセイ
朝日小学生新聞掲載

オープンデイ

二ヶ月の間、たくさんの話し合いを重ね泣き笑い、喧嘩もして励まし合って作り上げた、それぞのクラス企画、フリープロジェクト。十一月六日（日）、今年もオーブンデイは大いに盛り上りがりました。

小六・中一の企画は、『TOTORO IN WONDERLAND』。スタジオジブリと、ディズニー・アニメを対比。中二は、『がらくたミュージアム』。リサイクルできるペットボトル、フタなどをひたすら集め、様々なアートを製作。中三は、『星の伝説』。十二星座と琴座の伝説について、よく知られて いるけれど「そもそも何が発祥?」をもと に紹介。高一は、『LOST IN AMAZON』。ア マゾンに迷う旅人を主人公に、蛇やワニな どの力作の模型を中心展示。高二は『い のち』。『世界がもし百人の村だったら』 という有名な本をもとに、のちの大切さ、 私達が立ち向かってゆく」との大切さを 伝えようとするものでした。

がらくたミュージアム 中二 松田 祐理子

一学期、皆が言うオープンディイはとても大変そうでも漠然としていた。オープンディイつてどんなんだろう?そんな思いばかりが強まつた。二学期、周りがたんだんオーブンディイに向かつて走り始める。その中、私は一人、よく分かつていなかつた。どんな風になつていくのかな、わくわくした気持ちが生まれた。

私のクラスは五人しか生徒がない。先生を合わせて七人である。七人で出来るごと。がらくたミュージアムを開こう。ひよんなことから決まつたこのテーマは今思ふと本当に素敵なテーマだ。夏休み、とにかくがらくたをかき集めて二学期に持つて行つた。皆で整理したがらくた。見て

先生と一緒に、皆と一緒にとこどん作って達成感で満ちることができた。

私はがらくたのミュージアムの中でからくりを作る係である。どんなものを作ろうか、パツと思いついたのはタワー・ブリッジである。目の前にあるがらくたをとりあえず手に取り、当てずっぽうに作つていく。なんとなく形が出来たと思った時、全然タワー・ブリッジに見えない、と言われた。二日間タワー・ブリッジしかやつていなかつた私は、悔しくて悔しくてたまらなかつた。どこが似てないのだろう。タワー・ブリッジの写真と作品を見比べて、少しずつ近づけていった。タワー・ブリッジと言われて分かるのではなく、すぐ見て分かつてもらわなければならぬい。その難しさを実感した。

がらくたミュージアムは、シャドーライトをもう一つのテーマにしていた。暗いところで電気をつけると並べられたがらくたが何かの絵に見える、というものである。私は関わっていないが、そこで

いるとどんどんイメージが膨らんでいった。少しずつオープンデイが近づいてくるにつれて活動することが増えていったが、らくたミューージアムでやるモノが決まり、あつと言う間にオープンデイの準備期間に入った。机と椅子が片付けられ、期間に入つた。机と椅子が片付けられ、がらくたしかないがらんとした教室が残される。一週間で出来るか不安に駆られながら一日が過ぎていく。



中2のオープンディイ準備の様子 たくさんのがらくたを集めて作品を製作

感じたのは、先生と生徒が力を合わせてオープニングを作っていくことの素晴らしさである。生徒と先生が支え合って一つのモノを作っていく。これは当たり前のようにできなされていないことだ。オープニングで当日に先生と皆で作った作品を見て、来てくれた人が感激してくれた。感激してくれたのは、その作品に一週間の皆の思いが詰まっているからである。先生と一緒に、皆と一緒にとこどん作って達成感で満ちることができた、という経験は、これから私の中ですと生きていると思う。

オープニングの一日前、表彰式と閉会式があった。中二のがらくたミュージアムは沢山の賞を頂いた。本当に嬉しかった。自分たちが作ったもので見てくれた人が楽しんでくれたことが分かってとても幸せな気持ちだった。

これからも皆で作っていく大切さと喜んでもらうことの嬉しさを感じる事のできるオープニングにしていきたい。

「負けたくない」という気持ちが再びわきあがりました。

で、毎日の練習の疲れから、なかなか集中できず、振り付けも覚えられませんでした。三日後にひかえた本番、そして後夜祭への恐怖がピークに達し、「もうあきらめたい」と思い、泣きたくなる時もありました。しかし、私と同じようにフリー・プロジェクト企画と係の両方に参加し、時間と戦っている人たちを見ると、「負けたくない」という気持ちが再びわきあがりました。

オープンデイが終わりを告げた今は、達成感に満ちています。しかし、クラスの企画へももと積極的に関われば良かったな、とても思いました。あわただしく、このオープンデイ準備期間を走り続けていたクラスメイトの表情には、私とはまた違った「全てやり切った」という達成感に満ち、とても輝いていました。それを見ると、「うらやましい」と純粋に思え、「絶対に来年は、私もこのような表情で最後のオープンデイを終えた」と決意しました。

初めてのオープンディイ

高一 浅川

初めてのオープニングディイ
高一 浅川 水晶
本格的に焦りを感じ始めたのは、三日前。クラス企画に加えて掲示女子、ダンス企画の仕事や練習があつたからでした。それまでの日々はあつという間に過ぎ去つていき、ふと気が付くと三日前。どれもあいまいで未完成な状態。「もしかした

ら、間に合わないかも知れない」という不安と、「自分は何をやつていたのだろう」という後悔で、気持ちが本当にいっぱいでした。

特に、ダンス企画。オーピンディング準備期間になつてから、ダンス企画の参加者全員で踊る曲を練習し始めたの



3. 会話の発声

ほかの学年の企画もとても参考にして、来年の企画をしたいと思います。



アップルデイ



毎年恒例ラジウック村のアップルデイ。大量のリンゴを昔ながらの方法でジュースにしたり、お菓子を作ったり…秋祭りの一環です。立教生の参加も今や毎年恒例。今年は車の定員をオーバーするほどの大気でした。

高三になつてから今まで、行事がある度何回これが最後と言つてきた事か。しかし、高三生徒全員でやる大きないベントは、このオープンデイが正真正銘の最後だ。高三は縁の下の力持ちとよく先生方から言われる。確かにその通りだ。陰ながら売店を開くなどオープンデイがより活気溢れるものにしていくのが高三の役目だ。しかし、高三にできることはそれだけではないと僕は思う。オープンデイにおけるやりがいやどうすればもっと効率良いい物が仕上がるのかを後輩に伝えてあげることもまた高三の役目だと思う。

ある日食事の席で一人の後輩が「オープンデイは時間も取られるし、学年同士で意見が割れたりするし、正直きつい」と言つていた。僕はその時その後輩に、オープンデイがいかにその学年にとって良いものになるか、そして、本気でやつた後の達成感がどれ程のものかを伝えた。これは正直やり終えた後にしか分からない事だから仕方がないのも分かる。しかし、当日直前になると、後輩たちの廊下の方から急ぎ足の音や、声を張り上げて準備をしているのが聞こえてきて嬉しかった。

そして当日。どのクラスもそれぞれに頑張つて展示を作り上げたのがよく分かる仕上がりだった。嬉しそうに展示物を説明する後輩を見て微笑ましかった。結果発表

偉大な存在

高三 水田 大智

の時、生徒会長が言つていた。「大事なのは結果じゃなくて、これまでにクラスが一丸となつて積み上げてきた努力ややりがいだ」と。本当にその通りだと思う。僕は過去に一回も優勝したことはなかった。でもこの学校で一番心に残つてゐる行事だ。後輩もこのオープンデイで何か心の中に残るものがあつたらしいなと純粹にそう思つた。僕は当日焼き鳥の当番だったが、その二日間の準備に全力をかけてしまつた。きつとまだどこかにオープンデイへの熱意が残つていたのかもしれない。やはりオープンデイは偉大だ。

やはりオープンデイは偉大だ。



高3によるウェイター＆ウェイトレス

オープンデイを通して

高2 福谷 なつみ

知らぬが仮とは大げさな表現かもしれない。だが、「この高一」のクラス企画をやる前的心境をよく映し出している言葉だと思う。

今まで学校で行われる募金活動などに對して私自身を振り返つてみると、悲しみ同情していたと完全には言い切れない。こ



高2のクラス企画『いのち』

日本人全般に言えることだが、私達は核心を知らなさすぎる。自然災害が起きたとき、かわいそそうだと皆が言つた。だがどれほどの人が実際に現状を把握していただろうか。多くの日本人は飢餓や水不足に疎遠だ。知らない為、安定した生活を送つてゐる。やはり知らぬが仮である。この企画を通して、私は全てを見たと思ひ、足りない無い。むしろほんの

笑顔はない。

日本人全般に言えることだが、私達は核心を知らなさすぎる。自然災害が起きたとき、かわいそそうだと皆が言つた。だがどれほどの人が実際に現状を把握していただろうか。多くの日本人は飢餓や水不足に疎遠だ。知らない為、安定した生活を送つてゐる。やはり知らぬが仮である。この企画を通して、私は全てを見たと思ひ、足りない無い。むしろほんの

怖さに、このメジナ虫の部分はカットしたが、これはうそではない。資料からだけではない。写真からの印象もすさまじかった。三月に日本を襲つた地震のものである。互いに肩に手を置きはげましあう姿。人だけでなくペットも助ける救助隊。ただ文章に書くだけでは、悲しいというイメージしか持てないところを、写真ではその人、風景の細々とした感情を露わにしていた。皆の顔に

虫と言われる不衛生な水の摂取から体

入り口にしかすぎない。だが私達の企

達が全てを表現しようとしたから

だ。考える系口を与えたこの企画、私はすごくいいと思う。普段からあまり意識

せずに生きてきた私達を改めようと導いている。もし世界が百人の村で、私がその村人の一人だとしたら。私が今と同じ境遇にいる保証はどこにもない。

～先生のエッセイ～

1学期の中2は男子2人、女子2人の計4人のクラスだった。当然オープンデイのクラス企画は中1と合同になるのだろうと思っていたら、担任の奥野先生のリードで当たり前のように4人のプロジェクトが始まった。2学期、新入生男子1人を加えて本格的な準備が進む。誰一人サボれない、サボらない。1人がサボれば1/5が機能しない訳だから自ずと素晴らしい責任感が生まれてくる。女の子がベンチを使ってアルミ缶をひらいたり、ガキ大将が天井まで届くペットボトル製の巨大ロボットを作ったり… 僕ら教員も時間ができればすぐに手伝いに行った。

貴重な助っ人だからやり甲斐もあった。少しずつ「モノ」が出来上がっていくのが、生徒と同じ様に嬉しかった。一緒に知恵を絞って作業をしていると、ふと我が子に微笑みかけているのと同じ顔をしている自分に気づく。一生懸命やることの楽しさを味わってくればいいと思った。

そして表彰式。今年の中2は、さらに「総合優勝」というご褒美までもらつた。神様がいた。

(中2副担任)



の下でやできた国家で、お茶を飲む習慣があること。「お茶でもいいかがですか」“May I serve you tea?” そのお茶を出して相手をもてなす心の清らしさ、大切さを改めて知りました。



茶道部によるお点前

追求すればするほど奥深い意味などもあり、もっとお話を聞くべきことを問い合わせ、異文化とのふれあい、解し合っている姿は『現代』らしさを感じると同時に強いあこがれを感じました。

追求すればするほど奥深い茶道 高二 藤木

本人が書かれたという『無』の文字には人間は無からはじまり、生きて行く中で欲が出ていろいろなことが苦しくなる、常にいつ『無』になるかわからない覚悟を持つて生きることの難しさや大きさを今、震災後の日本が考えるべきではないかという間の意味が込められていました。

そのようなお話を聞いて、キリスト教との共通点などがあることを考へると、武士の時代仏教的価値観の中に生まれた『茶道』というのも精神的な部分が重要であるため、一種の宗教のようなものだとも言えるので、はなかと思いました。

んでしまうのではなくて、コップに移したりして、両手を添えて飲めば何倍も恵みに感謝できるし、おいしく頂けるはず。作法というのは相手を思う心、感謝を表す方法なのであると教えて頂きました。

デモンストレーションの中でも、袱紗で清める動作、お茶を飲む作法など、とにかく動きそのものではなく『心』を込めているか、表しているのかが大切であると強調しておっしゃられていたことが、とても印象的でした。

今回は三月の東日本大震災が起ったこと、相手を思いやる気持ちの大切さ、自分の人生を生きる心得、今ある生活を見つめなおす機会がありました。ステージ上にセットされた茶室の中の掛け軸には『無』という文字が書かれていました。大宗匠

が出来た生徒たち。最後に各前入りの修了証を受け取り和やかな雰囲気で講習を終えました。



物を詰まらせたときの対処法

口=Breathing (呼吸をしているか確認)
O=Circulation (心臓マッサージ)
呼吸と心拍が確認されなかつた場合にOとR (心肺蘇生)を行います。

生徒は数体のマネキンを前に心臓マッサージを三十回、人工呼吸を二回、繰り返し何セットも行いました。初めは樂しそうに行っていましたが、想像以上に大変な作業にして、命を救つて、命を救つたことがどういうことなのかを知ることができた瞬間でした。

他にもリカバリーポジション、マネキンを使用しのどに物を詰まらせたときの対処法、手足の外傷時に三角巾を使用して固定する方法など、たつた二時間の間に身近で起つことの得ることを中心、実際に『自分でやつてみ

まずは、応急処置の優先順位として知られています。「D R S A B C」から始まります。道端で倒れている人を見かけたら、D=Danger（回りに危険なものがいるか確認）、R=Response（倒れている人が応答するか）、S=Shout（助けを呼ぶ）

ツクな景色
がすばら
く、季節を
目に肌に感
じるひとと
きとなりま
した。



アッシュコダウンの馬たち



皆さん、イギリスに来たら何を見てみたいですか？ ロンドン観光？ それともホームズ探偵？ 英国らしく、『乗馬』なんていかがでしょうか。



ケンブリッジ サイエンス

ワークショップ

東日本大震災被災地域より

参加校を迎えて

今年も昨年に引き続き、七月二十四日よりケンブリッジ大学にて、日英高校生のためのサイエンスワークショップが開催された。クリフトン科学トラストのアルボーン博士が主催し、ケンブリッジ大学と本校が共催としてその運営に携わった。今回のワークショップには一般応募参加高校に加え、東日本大震災被災地域を代表して、六校の特別参加校を設けた。

このワークショップでは、科学の最高峰にあるケンブリッジ大学で科学探求実験の指導を直接受けるだけでなく、社会の中で果たすべき科学の役割、社会の問題解決の手段としての科学の役割を、先端研究者、英国人高校生との対話、討論を通して体験することを目指している。また、ワークショップ前にはロンドン研修を行い、近代科学学会議発祥の地である王立協会、科学と市民との対話の始まりである王立研究所、日本近代文明の原点となつたロンドン大学ユニバーシティーカレッジでの研修も行われた。被災後の困難な状況にある中で、ワークショップへ参加し、同世代の日英の高校生と共に生活し、先端研究者と科学研究に携わることにより、将来に夢と希望を持ち、被災地域の精神的復興の糧になることを願つている。

【特別枠参加校】

福島県立福島高等学校
福島県立相馬高等学校
宮城県仙台第二高等学校
宮城県宮城第一高等学校
宮城県仙台二華高等学校
茨城県立日立第一高等学校

【一般公募参加校】

立教池袋高等学校
立教新座高等学校
かえつ有明高等学校
立教英国学院高等部
英国現地高校7校

◆英国側主催者を代表して

We are delighted to welcome to Cambridge students and teachers from schools in Japan which have suffered so much from the effects of the March 11th tsunami and earthquake to attend the 2011 UK-Japan Young Scientist Workshop at the University of Cambridge this summer. As the result of generosity of many organizations we are able to cover all these schools' costs in Cambridge and also their air fares from Japan. We and all the British students and teachers look forward very much to welcoming them to England as our special guests. We are sure that, by living and working together in small teams with Cambridge scientists and engineers, not only will their understanding of science deepen but also they will see their futures in a global context and form international friendships which will last for many years.

クリフトン科学トラスト エリック・アルボーン博士

ワークショップ開催前に、被災地域、英國側主催者がそれぞれの思いを次のように述べている。

◆被災地域高等学校を代表して

今回の東日本大震災および原子力発電所事故により、多くの学校が被災しました。このような中、日英両国の皆様方よりのご支援により、英國で行われるケンブリッジサイエンスワークショップに参加できることとなりました。茨城県、宮城県、福島県から参加する六つの高校の生徒、引率教員を代表し、深く感謝申し上げます。

この機会は高校生にとって世界を見るための貴重なチャンスとなります。今回の震災は日本の大きな転換期になると言われておりますが、今回の参加者がグローバルな視点を身につけ、新しい日本を構築する人材となることを願つてやみません。皆さまのご支援やお気持ちをしっかりと胸に刻み、ワークショップに参加することをお誓い申し上げます。

福島県立福島高等学校教諭 橋爪清成

ワークショップ概要

ケンブリッジ大学で研究する最先端科学者の指導により、今年は九つのプロジェクトが企画された。

○化学：金ナノ粒子の合成

ケンブリッジ大学で研究する最先端科学者の指導により、今年は九つのプロジェクトが企画された。

○物理：日立研究所での、電子機器への将来的なナノテクノロジーの応用

ケンブリッジ大学で研究する最先端科学者の指導により、今年は九つのプロジェクトが企画された。

○物理：キヤベンディッシュ研究所での柔らかさの測定

ケンブリッジ大学で研究する最先端科学者の指導により、今年は九つのプロジェクトが企画された。

○植物科学：石油を合成する藻の光合成条件についての探求

ケンブリッジ大学で研究する最先端科学者の指導により、今年は九つのプロジェクトが企画された。

○地理科学：地震波の探求

ケンブリッジ大学で研究する最先端科学者の指導により、今年は九つのプロジェクトが企画された。

○生物人類学：認知科学と細胞間カルシウム信号伝達について

ケンブリッジ大学で研究する最先端科学者の指導により、今年は九つのプロジェクトが企画された。

○環境放射能：放射線データの解析と安全基準についての考察

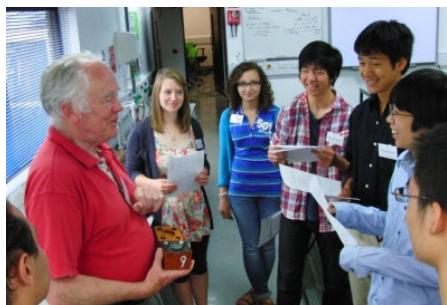


放射能プロジェクトでのディスカッション

このプロジェクトは、オックスフォード大学物理学部医療放射線の専門家であるアリソン教授の指導で行われた。震災、津波による原子炉事故による放射能汚染が日本では大きな問題の一つになっている。参加校の福島高校では既に校内の放射線データの計測が行われ、高校生が持ち込んだデータがこのプロジェクトで真剣に討論されることとなつた。この問題に対して科学はどのように答えるのか、また、事態を心配している一般市民の人たちとどのように対話をしていくのか、まさに我々の目標すワーキングショップの意義、すなわち、社会の中で果たす科学の役割、意味を討議した質の高いプロジェクトの一つとなつた。



靈長類の行動と遺伝子解析プロジェクトチーム



アリソン教授を囲んでの放射能プロジェクト



研究発表会

一方で放射能汚染を非常に心配している福島県の人々の気持ちもよく理解できる。参加した福島高校の生徒達は既に、校内の放射線汚染のデータを計測し、これをもとに作成した汚染マップを、現状を伝えるため、持参していた。どこまでが安全で、どこからが危険なのか。その安全基準の根拠は何か。今後どのような危険を抱えて人々は生活していくのかはいけないのか。現地福島の生徒でなければできない真剣な質疑・討論があらゆる方面から、日英の高校生、そして専門家である

アリソン先生との間で行われた。まさに、今科学が果たすべき役割は何なのかを実感させられる内容であった。

最終日には各プロジェクトより研究発表会がなされた。科学成果を発表するだけではなく、このワークショップ期間中に学んだこと、英国人高校生より学んだこと、ケンブリッジ大学の町並みより学んだこと等、なんだ成果が生徒より発表され

アリソン先生との間で行われた。まさに、今科学が果たすべき役割は何なのかを実感させられる内容であった。

二日目に、BBCケンブリッジラジオ局によつて、このプロジェクトの取材が行われた。一般的な取材に終わることなく、取材を通じて、原子炉事故の取材のあり方にまで、記者を含めて討論が始まつたのには驚いた。さらに、例年であれば討論は英国人の生徒が主導をとつていたが、今回は日本側の生徒から様々な日本の現状が報告され、視点の鋭い質問が發せられていた。舞台裏では、日本側の生徒だけが集まり、今までの話のポイントの確認。今後の展開、どこまで英国側に伝えていくかの話し合いが自主的に持たれていた。このことも、今回のプロジェクトの質の高さを示したものと思われる。

このような深い探求と質の高い話し合いが持たれたのも、日英の高校生の間に入つたフ

アシリティエイターと呼ばれる方のお陰だ。通常

はケンブリッジ大学大学院の日本人学生にお願いをするのであるが、このプロジェクトで

は日本で精神科医の経験を持つ山澤医学博士にお願いする

ことになつた。アリソン先生から

の科学的データだけでなく、

医学的、精神学的に放射能汚染

がどのように取り上げられる

ければならないかの点について、更に多面的な討論ができた

ことは山澤博士の指導による

部分が大きい。

マリーエドワードカレッジ
嘉悦ケンブリッジ教育文化センターにて

最終日には各プロジェクトより研究発表会がなされた。科学成果を発表するだけではなく、このワークショップ期間中に学んだこと、英国人高校生より学んだこと、ケンブリッジ大学の町並みより学んだこと等、なんだ成果が生徒より発表され

最後のハイライトはケンブリッジで最も古いカレッジの一つであるコーパス・クリスティ・カレッジでのディナーハイ。何百年も経つ大学の食堂で、昔からのしきたりに従い、ラテン語の食事の祝福に始まつた。まさに、ハリーポッターの世界そのものだつた。ハイテーブルに、ライト元駐日大使及び大使夫人、英國化学会代表の方々が席に着かれた様子から、このワークショップを通して東日本大震災被災者に対する温かいサポートを改めて感じた。このハイテーブルの下の長いテーブル

テープルに、ライト元駐日大使及び大使夫人、英國化学会代表の方々が席に着かれた様子から、このワークショップを通して東日本大震災被災者に対する温かいサポートを改めて感じた。このハイテーブルの下の長いテーブル

本校が、朝日小学生新聞・
朝日中学生ウィークリーで
紹介されました

朝日小学生新聞で
紹介された作品を持つ小6

「私の学校」

小6 大野 菜々子

立教英国学院は全寮制の学校です。授業中は制服ですが、放課後は私服で生活しています。最初は寮生活で家族と離れるのがいやだなと思っていたけど、友達や先輩方がやさしくて、とても楽しいので、いまは家族と離れることについていやだとは思いません。

学校は朝、ラジオ体操をして、朝食を食べ、礼拝をしてから授業が始まります。学校では毎朝礼拝があります。礼拝ではチャプレン(学校づきの牧師さま)の話を聞いたり、キリストの言葉を集めた福音書を先生が読むのを聞いたり、聖歌を歌ったりしています。

授業でも聖書の時間があります。教室でチャプレンのお話を聞いたり、歌を聴いたりします。

わたしは日曜日や放課後の時間があつて天気がいい日、友達とブラックベリーを取りに行きます。たくさんとれた日は先生とジャムを作つて食べます。授業でイギリスの町などに外出することもあり、とても楽しい学校です。

朝日小学生新聞 11月6日(日)掲載

短期留学

昨年度同様、英国のウォルバーンブトン校へ六名の女子生徒が短期留学に参加しました。七月十日から五泊六日、生徒の家庭にホームステイをしながら、現地校での授業や課外活動などを体験するプロジェクトです。昨年に始まつて今年で二度目、参加人数を拡大しての実施となりました。三学期は、ウォルバーンブトン校の生徒らが本校に訪れることになつています。

夏休み最初の一週間

高一 北端 ふみ



Wolverhampton School

私の高二の夏休みはイギリス現地の女子校への短期留学で幕を開けた。私にとって今回の留学は去年のリベンジという意味があつた。去年の私は、英語はしゃべれない、会話にも入れない、友達に頼りっぱなし、という最悪の日本人だったと思う。すごく貴重な経験だつたのに無駄にしてしまつたと今でも後悔する。だから今は去年とは違う場所だけ、もっと積極的に英語を話せるようになり目標でがんばつた。そして始まつた私のリベンジ。学校に登校するのはバスで。立教にいると「登校」という概念がなくなるので（寮から教室棟までの距離は百メートルほど）まずはそこから新鮮だつた。学校に着くとまず物理室へ。そこで授業の前にみんなでおしゃべり。カフェテリアでココアを奢ってくれたりした。そしてホームルームの教室に移動し、出席連絡をした後、いよいよ授業開始。私のお世話をしてくれたニキータは理系の女の子。

将来は菓を作りたいと言つていた。だからとつて授業もほとんど理系。化学、生物、数学。化学や生物はGCSEで少し習つてるので単語は分かる。けど授業の内容はほとんど分からぬ。悔しかつた。少しでも成長していただつたのに。でも数学は半分くらい分かたし。何よりニキータや他のクラスメートがすごく優しかつた。授業内容を簡単に教えてくれたり、「わかりますか」と日本語のメモを渡してくれたりした。難しい授業の時はハリーポッターの本を貸してくれたり。三学期、みんなが来た時に同じように優しくしてあげたいと思う。

他にも休憩時間に一緒に新聞を読んだり、スポーツ観戦をしたり。去年の私だつたらできなかつたことも自然にできるようになつていて嬉しかつた。言葉の壁はやつぱりまだあるし、自分の気持ちを表現する英語がうまく見つからなくて辞書に頼ることもしばしば。

ただどうやつぱり意思疎通が出来時の感動はすごくやる気がでる。もつともつとしやべりた感じたことはみんな、将来の夢が明白なこと。高校の時から「こんなことを勉強したい、だから今勉強しなきゃいけないことはこれ」というのが分かつてゐる。私は将来のことを考へてゐるつもりだつたけど、そのことを今勉強につなげることはしていなかつたし、あんなにまだ自分の夢を熱く語れない。次会う時までにしつかり語れるようにしておこう。

小／中学部／高等部入学試験

【小学部5年／中学部1年 2012年4月入学】

出願期間：2012年1月10日～1月18日

選考期日：2012年1月22日

【高等部1年 2012年 4月入学（B日程）】

出願期間：2012年2月6日～2月15日

選考期日：2012年2月19日

※突然の海外転勤でお困りの場合には、上記以外でも受け付けます。

お気軽にご相談下さい。

編集後記

今秋は穏やかで暖かい気候に恵まれました。昨年度は雪のため中止になったキャロリングも、無事執り行うことができました。夏期休暇中の短期留学やサイエンスワークショップのプロジェクトの拡大に加え、各科による校外学習が行われました。今年から全校生徒が一齊にTOEIC資格試験を実施し、900点以上を獲得した生徒もいました。今後も継続的に本物の英語を学ぶ機会を増やしていく予定です。

また来年も実り多き一年にしたいと思います。新年もまた立教英國学院をよろしくお願ひ致します。よいお年をお迎え下さい。

Merry Christmas!

メールマガジンご希望の方は下記ホームページの「メールマガジン配信登録」から登録ができます。

www.rikkyo.co.uk

立教英國学院通信を電子配信に切り替えたい方は下記までご連絡下さい。

ご意見、ご感想もこちらへどうぞ。

infodept@rikkyo.w-sussex.sch.uk